

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成22年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するという事を良く聞きます。立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごす事ができ、季節の花を植えて利用者様と一緒に水をあげたり眺めて季節感を味わう事もできます。主に中庭で年に4回行事を行っており、ご家族も参加していただくアウトホームなイベントになっています。イベント時はご家族様と利用者様、近所の方々が触れ合える貴重な時間なので毎回大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関と隣接しているため、24時間体制で連携がとれるなど医療面でも充実しており、家族もそれを心強く感じている。建物は3ユニットとも平屋造りで芝生の中庭に面しているため、光と風をいつも感じることができる。職員の異動が最小限に抑えられているため、利用者との良好な馴染みの関係が構築されている。開設から9年目を迎え、地域との交流もさらに深くなり季節の恒例行事はもちろん、地域住民とのお付き合いも充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム菜の花
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	武田 淳子
評価完了日	2010年 6月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎日の申し送り時に運営の理念を唱和し、実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 理念を毎朝唱和したり、名札の裏に文面を入れていつでも見れるようにする等、職員は理念の意味を理解し共有している。また、今年目標を「やさしい介護」と設定し、職員全員で利用者に今まで以上に丁寧に接している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所周辺の方々と挨拶を交わしたり、地域の清掃等や学校の運動会などの行事にも参加をさせてもらっている。	
			(外部評価) 地域からも認識されつきあいも深まってきている。しめ縄用の稲藁などご近所の農家の人の方から今年も要るのではと声をかけて持ってきてくれる。幼稚園児の訪問や、中学生の実習も受け入れている。新聞を作成し近所に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症への対応や助言を頂いたり地域の方々にも理解を得る為に、毎月菜の花便りを発送している。また近隣の学校等、生徒の体験学習の受け入れを積極的に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所での様々な取組み、サービスの状況を報告し意見や情報の交換を行っている。地域の行事を教えてもらい、外出支援に繋げている。	
			(外部評価) 2か月に1度行事・外出支援・その他ホームの状況報告を行いその後意見交換など行っている。新しい参加者も増え活発に意見交換ができていたことが記録から伺える。ホームからは理事長を始め施設長及び職員、さらに法人内の他事業所からも参加しており重要な会議として位置づけられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所内のサービスや実情を報告したり、法改正で運営上疑問に思うこと等の問い合わせで連絡をしている。	
			(外部評価) 新しい情報が入った時など市役所の担当者に教えてもらうこともある。地域包括支援センターとは運営推進会議に参加してもらっているので密な関係がとれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所で周知徹底している。利用者、家族に心理的にストレスを与えず安心していただく為に居室・内玄関は施錠していない。また防犯上、不審者の侵入を防ぎ利用者の安全確保の為、外玄関のみ施錠している。	
			(外部評価) 職員の人数を増やし、利用者を十分見守れる体制をつくることで身体的にも精神的にも拘束に当たることがないように努めている。また、命にかかわること等でやむを得ない場合は、医師の指示に従い家族に同意を取った上で最少最短にするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止マニュアルに基づき、職員一同十分に理解した上で日常生活のケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通じて制度の理解をして、対応の仕方のマニュアルを作成し、活用すべき時に支援が出来るように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 料金改定や加算の時等には書面にして、各家庭毎に理由等の十分な説明を行い理解、納得、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が意見が言い難いと言う事を、管理者・職員は十分に理解し、匿名での投函の箱を設けたり、心情を理解した上で、来所時等に話を聞く様に心掛けている。 (外部評価) 投書箱を事業所だけでなく隣接する病院にも置いていたが、長い付き合いの中で信頼関係を築いているため利用者も家族も直接言ってくれる。苦情や意見が出された時には、真摯に受け止め、きちんとした対応がとれるような仕組みが構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員間でミーティングを定期的に行い、意見問題点等を出し合い、それを文書にし代表者は総合的に判断し管理者・職員の意欲の向上につながる様指示を行っている。</p> <p>(外部評価) 理事長は、週に1回往診に訪れた時に職員に声かけし、直接話ができる機会を設けている。管理者と職員は良好な関係が築けており、お互いに話し合いができる関係にある。月1回のミーティングは、お茶を飲みながら気さくに話し合える雰囲気作りに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格をとることで事業所としての質も向上するという事を理解し、積極的に支援し手当てという所で反映している。職員の昇給もあり、意欲が出るようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 各職員の立場・経験や習熟度に応じて研修計画を立て実施している。 研修費用の援助も行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修や勉強会に出来るだけ参加し、同業者と情報交換をしたり、相互訪問等の検討をしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 相談は家族の事が多いが、利用希望者ご本人の所にも職員が出向き話をして関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時、家族の立場に立ち様々な声に耳を傾けて、信頼関係が築けるように心掛けている。家族の思いや体験等多様な価値観を受け入れるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分なアセスメントを行い、ケアマネージャーや他職員とも相談し判断するよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし喜怒哀楽を共にして、利用者が孤独にならない様寄り合い支えて信頼関係が築ける様努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と利用者が仲良く過ごせ、関係性が途切れないよう面会等には十分気を配っている。 菜の花便りを通じて現状の報告を行い、イベント開催時等には一緒に参加して貰える様声掛けを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の馴染みの人や場所を把握して、外出支援を行ったり近況報告を行い、関係性が途切れないよう努めている。 (外部評価) 利用者の友達や老人会の方が訪ねてくれ季節の野菜などを届けてくれたり、昔話をしたりと昔からの馴染みやホームでできた新しい馴染みなど、様々な関係が途切れないよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の感情・価値観などを尊重し、共同生活が楽しく送れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設を退居し在宅生活に戻っても本人、家族の経過をみて必要に応じてフォロー・相談にのっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や利用者本人から、場面場面で聞き取れた話を元に利用者の考え方、価値観を把握して職員全員が同じに理解できるようにセンター方式の活用を徐々にしている。	
			(外部評価) 長く勤めている職員が多く、開設当初からの利用者も何人もいるため信頼関係ができており、お互いに話がしやすい。さらに気心が知れているので表情や態度で思いや意向を把握できる。常に利用者を中心に考え思いを遂げられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者本人、または関係施設等の情報により聞き取れた話を元にして、生活感等を把握の上現在の生活において力が発揮できるような場面を提供し、自分らしく過ごせるように配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 点と点が線になるように、断片的な関わりにならない様一日の流れの記録や申し送りを行い、カンファレンスを通じて職員全員が現状把握出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は家族、本人の意見を聞き、介護職員や他の職種の方々の意見を取り入れ作成している。定期的にモニタリングを行い検討している。	
			(外部評価) 利用者本人や家族とも話し合いを行い要望を聞き取っている。利用者一人ひとりに担当の職員が付き、介護計画の案を作成し職員全員で検討している。必要に応じて様々な立場の関係者の意見を取り入れながら管理者とケアマネジャーで最終的に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 計画に対するモニタリングを日々行い、問題点を記録して見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に、小規模多機能事業所があるので、スムーズに在宅への移行が出来るような体制が整っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 老人会の方などの来所もあり、続けて来所してもらえるよう声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に家族に希望を聞き、かかりつけ医、主治医を 確認している。当事業所の場合、隣接の診療所の院長 を希望する方が多く、受診の支援は円滑に行えてい る。 (外部評価) 母体である医療機関が隣接しており、医師が週1回往 診に来てくれているため利用している利用者が多い が、希望する医療機関に掛ることも可能である。他の 病院（皮膚科）とも連携を取っており専門医が往診し てくれる。その他の専門の病院には、家族もしくは外 部のヘルパーが通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常的に情報交換を行い、利用者の方が適切な受診・ 看護が受けられるよう医療連携が取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者と必要な情報交換は行っている。また、同 法人である為、病院関係者との関係作りは十分出来て いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居契約時に家族に説明し、方針を共有している。家 族の要望があっても緊急時には主治医が判断して説明 し同意を得て、入院等の措置を取る事も理解しても らっている。 (外部評価) 母体である医療機関が隣接しているため24時間医師 や看護師の支援が受けられることから、家族の希望が あれば受け入れる体制がとれている。月1回法人全体 で吸引やAEDの使い方など勉強会を行っている。	家族や利用者は法人やホームの体制に安堵感を感じ、 期待を寄せていることが伺える。全職員に対し講義や 実技講習など繰り返し行いさらに質の高い終末期ケア が提供できるよう希望したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員による救急救命訓練を定期的に行っている。各種マニュアルを朝の申し送り時に読み上げ、職員全員が周知徹底出来る様努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練（内1回は消防職員を派遣してもらっている）を行い、近隣の方にも参加していただいている。また、他の家の方にも訪問をし協力を呼びかけている。 (外部評価) 年2回防災訓練を行っている。1回は消防署職員指導のもとで行い、1回は夜間を想定し緊急連絡の練習などしている。地域の中で生活している職員がいるのでその親せきや知り合いの人にも協力を頼んでいる。緊急持ち出し袋など常備し見えやすい所に置いている。	災害対策にやりすぎはないので訓練は定期的につけ、さらにレベルアップを旨とし、利用者の命を守る努力を続けて欲しい。建物もしっかりしていて、医療施設が隣にあるなど好条件がそろっているので災害時の一時避難所に開放するなど地域との相互協力についての検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いは十分気をつけている。利用者のプライバシーが守られるように入室時はノック、声かけを必ず行うようにしている。 (外部評価) 部屋を訪れる時はノックや声掛けをしている。おむつ交換の時は、さりげなく部屋へ誘導している。着る物は本人に選んでもらい好きなものに替えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉が出てこない利用者に対しても、ちょっとした仕草で見極められるように、目配り気配りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は常に利用者優先という事を意識して、その人らしくを基本にその人に合ったペースで、支援をするように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員の価値観ではなく、あくまで利用者の価値観に添えるように気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳の準備やおぼん拭きを手伝ってもらっている。いつでも温かい食事を提供して食欲がでるよう努めている。 (外部評価) 利用者に食べたいものを聞いたり、嗜好調査を行ったりして献立に反映させている。献立は栄養士が作成し職員が調理をしている。研修会などで得た情報を元によりよい食事ができるよう積極的に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士が栄養のバランスを考え、メニューを作成しているので必要なカロリー水分量は確保出来ている。(水分摂取量は夜間チェック表にて個々の摂取量を記録している)	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る人は自力で歯磨きをしてもらい、出来ない人には職員が支援し歯磨きチェック表に記録し確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が一番よいという事を職員が理解し、可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。	
			(外部評価) 排泄シートを作り利用者一人ひとりのリズムを把握してトイレへ誘導している。特に排便はトイレで行えるように誘導等に努めている。夜間はチェック表を利用し排泄リズムを把握し必要に応じてトイレ誘導やおむつ交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の排泄パターン状況を把握し、便秘予防の対応に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じ入浴支援を行っている。拒む方には拒否の原因は探るが無理強いさせる事なく、入浴が楽しめるように支援している。	
			(外部評価) 最低2日に1回入浴してもらっている。利用者の希望や好みに合わせて入浴できるように配慮されている。また、ユニットによってリフトやシャワーチェア等の設備を変えているため、利用者の状態に合わせて適切な設備で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その人に合った日中の過ごし方をしてもらっている。昼夜逆転の方には日中なるべく起きていてもらうようにし、高齢の方など日中ずっと起きているのが難しい方は昼寝をもらうなど工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の服用している薬について、職員は理解出来ており、副作用や注意事項を理解する努力をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員は、利用者個々の生活歴や趣味などを把握しており、その人個人の楽しみ事が出来るように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の体調を見ながら、可能な限り外出支援を行い、楽しんでもらっている。行き先などは出来るだけ本人の希望に添えるようにしている。	
			(外部評価) 1か月ごとの行事計画を立て、桜や菜の花を見に行ったり、近くのスーパーや衣料品店へ買い物に出かけたりする。外出の困難な利用者には、中庭に車いすで日光浴や外の空気に触れ季節感を味わってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の希望で、能力に応じてお金を所持していただき使えるように支援している。事情により預かり金のある利用者には、月に1回ご家族に収支報告をして、確認のサインをもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは、自由に出来るようになっており職員はそれを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者に居心地よく過ごして頂くよう、また、馴染みの空間になるように適度な飾りつけなど色々工夫している。 照明も朝・昼・夕・夜と認識してもらえるよう明るさに配慮している。	
			(外部評価) 各ユニットから出入りできる芝生の中庭が日々の憩いの場になったり、行事を行う広場になったりと利用者の生活にとって欠かせない空間になっている。安定したいすが色々なところに置かれ、利用者が思い思いのところで寛げるよう配慮されている。壁面には行事の写真なども貼り楽しい様子が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者が安心、居心地よく過ごせる場所、そうした空間づくりをしている。 一人が良い時、皆と一緒にいるのが良い時など状況に応じてスペースをつくる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 思い出の品や写真を持ち込んでもらい、本人にとって一番安らぐ場所として居心地よく過ごせるように支援している。	
			(外部評価) 写真、手作り品など思い出の物とともに、テレビ、箆箭などの使い慣れたものを持ち込み、使い勝手のいいように配置されている。絵の上手な職員がペットの絵を書いてくれたのがお気に入りになっている利用者もあり、大切に居室に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者自身で出来る事はなるべくしてもらいながら、リハビリスタッフと協力して、安全で自立して暮らせる環境になるように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成22年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するという事をよく聞きます。立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごす事が出来、季節の花を植えて利用者様と一緒に水をあげたり眺めて季節感を味わう事ができます。主に中庭で年に4回行事を行っており、ご家族様も参加していただくアウトホームなイベントになっています。イベント時はご家族様と利用者様、近所の方々が触れ合える貴重な時間なので毎回大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関と隣接しているため、24時間体制で連携がとれるなど医療面でも充実しており、家族もそれを心強く感じている。建物は3ユニットとも平屋造りで芝生の中庭に面しているため、光と風をいつも感じることができる。職員の異動が最小限に抑えられているため、利用者との良好な馴染みの関係が構築されている。開設から9年目を迎え、地域との交流もさらに深くなり季節の恒例行事はもちろん、地域住民とのお付き合いも充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 武田 淳子

評価完了日 2010年 6月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は開設以来変更はしていないが毎日唱和している。理念とは別に、定期的にホーム独自の目標を考えそれにむけて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 理念を毎朝唱和したり、名札の裏に文面を入れていつでも見れるようにする等、職員は理念の意味を理解し共有している。また、今年目標を「やさしい介護」と設定し、職員全員で利用者に今まで以上に丁寧に接している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 災害時は地域の方の協力が不可欠という事で、繰り返し協力依頼の声かけを行ったところ、避難訓練に近所の方が参加してくれた。また、定期的に幼稚園児の来所や行事等による交流がもてるようになった。</p> <p>(外部評価) 地域からも認識されつきあいも深まってきている。しめ縄用の稲藁など近所の農家の人の方から今年も要るのではと声をかけて持ってきてくれる。幼稚園児の訪問や、中学生の実習も受け入れている。新聞を作成し近所に配布している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 菜の花便りを発行し、地域の郵便局、駅、小学校等に配布しホームの理解や認知症の方の支援の方法を伝える努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 理事長や利用者の家族の参加も毎回あり、色々な意見を出してもらいサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 2か月に1度行事・外出支援・その他ホームの状況報告を行いその後意見交換など行っている。新しい参加者も増え活発に意見交換ができていることが記録から伺える。ホームからは理事長を始め施設長及び職員、さらに法人内の他事業所からも参加しており重要な会議として位置づけられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の結果の報告や、様々な研修の場で保険者の担当の方に相談をしている。	
			(外部評価) 新しい情報が入った時など市役所の担当者に教えてもらうこともある。地域包括支援センターとは運営推進会議に参加してもらっているので密な関係がとれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の弊害や、何が身体拘束に当たるか等は、ミーティング等で話し合い、周知徹底している。	
			(外部評価) 職員の人数を増やし、利用者を十分見守れる体制をつくることで身体的にも精神的にも拘束に当たることがないように努めている。また、命にかかわること等でやむを得ない場合は、医師の指示に従い家族に同意を取った上で最少最短にするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何が虐待に当たるかという事を、職員がミーティング等で話し合い理解している。特に言葉の虐待に関して、語尾まで丁寧な声かけを心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度に関する資料は、いつでも職員がみれる所に置いてあり学ぶ機会がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 懇切丁寧に時間をかけて説明を行っている。疑問点、不安な事がもし後から出てくればその都度説明もしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議で家族から要望があった場合、サービスに反映できるように話し合いをしている。家族が意見を言い易いよう配慮している。 (外部評価) 投書箱を事業所だけでなく隣接する病院にも置いているが、長い付き合いの中で信頼関係を築いているため利用者も家族も直接言ってくれる。苦情や意見が出された時には、真摯に受け止め、きちんとした対応がとれるような仕組みが構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) ミーティングであがった職員の意見等は、事務長を通 じて代表者に聞いてもらっている。 または、内容によっては直接代表者に意見や提案がで きる機会を設けている。 (外部評価) 理事長は、週に1回往診に訪れた時に職員に声かけ し、直接話ができる機会を設けている。管理者と職員 は良好な関係が築けており、お互いに話し合いがで きる関係にある。月1回のミーティングは、お茶を飲み ながら気さくに話し合える雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 事務長、代表者が職員個々と面談をしたりして、働き やすい環境の整備に努めてくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修計画を立て実践をしている。資格試験や研修の費 用を出してくれている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをして いる	(自己評価) 研修を通じてお互いのホームを訪ねあう等、交流をし ている。お互いの良い所をサービスに活用できるよ うに努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始時は特に気をつけて対応をしている。利 用者さんの声を記録し、考え方や価値観を職員が共有 できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者さんの声に耳を傾け、信頼関係が築ける様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 精神・身体状況、家族状況を見極め必要なサービスが受けれるように努めている。主治医からの助言もある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者本位の生活が送れるように、個々の価値観、道徳観等に共感し、安心して寄り添えあえる関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の意見や、考えを尊重し日々のケアに取り組んでいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 認知症で繋がりが希薄になりそうな方が多いが、面会時には職員も一緒に話をして、現状の理解をしてもらえる様にし、関係が途切れないように努めている。 (外部評価) 利用者の友達や老人会の方が訪ねてくれ季節の野菜などを届けてくれたり、昔話をしたりと昔からの馴染みやホームでできた新しい馴染みなど、様々な関係が途切れないよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個人個人の感情や価値観をよく把握し、助け合いながら生活がしていける様努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設の近くに自宅のある利用者が多い為、契約終了後も併設している介護サービス等を受けられるので、折にふれ色々な相談や支援に努める事が出来ている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 今まで生きて来られた環境をよく知り、出来る限り希望や意向に添った支援をしている。 (外部評価) 長く勤めている職員が多く、開設当初からの利用者も何人もいるため信頼関係ができており、お互いに話がしやすい。さらに気心が知れているので表情や態度で思いや意向を把握できる。常に利用者を中心に考え思いを遂げれるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者との遊びや会話、家族さんが来所された時に教えてもらい、これまでの生活環境や暮らしを把握出来るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の心身状態や能力をよく観察し、その人にあった生活が出来よう把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は本人、家族の意見を聞き介護職職員や他の業種の人々の意見を聞き入れながら作成している。定期的にモニタリングを行い、本人が良い暮らしができるよう改善し、その都度検討をしている。	
			(外部評価) 利用者本人や家族とも話し合いを行い要望を聞き取っている。利用者一人ひとりに担当の職員が付き、介護計画の案を作成し職員全員で検討している。必要に応じて様々な立場の関係者の意見を取り入れながら管理者とケアマネジャーで最終的に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の目標に向かって、日々の様子を細かく記入するように心掛けている。職員のミーティングを行い皆で話合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に小規模多機能事業所があるので、在宅への移行・居住への移行がスムーズに行える体制が出来上がっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 老人会の方々や地域の方の来所があり、催し物などに来てもらえるように声かけを行っている。利用者を神社祭りなどにも引率して、楽しめる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に家族の希望を聞いて、かかりつけ医、主治医 の確認をしている。 (外部評価) 母体である医療機関が隣接しており、医師が週1回往 診に来てくれているため利用している利用者が多い が、希望する医療機関に掛ることも可能である。他の 病院（皮膚科）とも連携を取っており専門医が往診し てくれる。その他の専門の病院には、家族もしくは外 部のヘルパーが通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常に情報交換を行い、利用者が安心して適切な受診・ 看護が受けられる様に、医療機関と連携をとってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者と情報交換や、相談・報告は常に行えてい る。病院・介護職員間も行き来があり、関係性も良好 である	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時から家族に説明をし、方針を共有している。緊 急時等には主治医が判断して家族に説明し、入院等の 措置をとる事も理解して頂き、利用者のケアに配慮し ている。 (外部評価) 母体である医療機関が隣接しているため24時間医師 や看護師の支援が受けられることから、家族の希望が あれば受け入れる体制がとれている。月1回法人全体 で吸引やAEDの使い方など勉強会を行っている。	家族や利用者は法人やホームの体制に安堵感を感じ、 期待を寄せていることが伺える。全職員に対し講義や 実技講習など繰り返し行いさらに質の高い終末期ケア が提供できるよう希望したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内部訓練はもちろん、外部講習等にも参加して初期対応訓練を身に付けている。 年に1回は、消防職員を派遣してもらい、救急救命講習を職員は受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回避難訓練（内1回は消防職員派遣による訓練）を行い、近所の方にも来棟していただき合同で訓練を行っている。 (外部評価) 年2回防災訓練を行っている。1回は消防署職員指導のもとで行い、1回は夜間を想定し緊急連絡の練習などしている。地域の中で生活している職員がいるのでその親せきや知り合いの人にも協力を頼んでいる。緊急持ち出し袋など常備し見えやすい所に置いている。	災害対策にやりすぎはないので訓練は定期的につけ、さらにレベルアップを旨とし、利用者の命を守る努力を続けて欲しい。建物もしっかりしていて、医療施設が隣にあるなど好条件がそろっているので災害時の一時避難所に開放するなど地域との相互協力についての検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に相手の立場に立ち、利用者は生き生きと生活が送れるように、また利用者にとって良い職員になれる様に、言葉遣いには十分に注意をしている。 (外部評価) 部屋を訪れる時はノックや声掛けをしている。おむつ交換の時は、さりげなく部屋へ誘導している。着る物は本人に選んでもらい好きなものに替えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 古い記憶が言葉に出れば、よく耳を傾け出来る限りその時の状況が読み返ってくるよう支援する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者を孤独にしないように、絶えず声かけをして、その中から少しでも希望する様な要望があれば、支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一日の生活の中でメリハリがつくように、着替えをしてもらえるよう、声かけを行っている。その人に合った格好が出来るように気を付けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下ごしらえができる利用者には、お手伝い頂き食事中も職員が絶えず声かけをして、楽しく食事摂取して頂く様努めている。	
			(外部評価) 利用者に食べたいものを聞いたり、嗜好調査を行ったりして献立に反映させている。献立は栄養士が作成し職員が調理をしている。研修会などで得た情報を元によりよい食事ができるよう積極的に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士のメニューに添って調理している。おやつ時間も水分が多く飲めるよう、毎日メニューを変え摂取していただく。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 準備をしておくだけでよい方や、全面的な介助が必要な方等様々だが、口から食べる事の重要性を勉強会等で職員が学んで理解をして、口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人のパターンに応じて出来る限り声掛け、又誘導して介助するよう支援している。24時間排泄シートも活用している。	
			(外部評価) 排泄シートを作り利用者一人ひとりのリズムを把握してトイレへ誘導している。特に排便はトイレで行えるように誘導等に努めている。夜間はチェック表を利用し排泄リズムを把握し必要に応じてトイレ誘導やおむつ交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックシートを作成して、それに基づき水分、食物を摂取していただくよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に応じて支援しており入浴拒否者には無理強いさせることなく、やんわりと理由を聞き、次回に楽しく入浴してもらうよう支援している。	
			(外部評価) 最低2日に1回入浴してもらっている。利用者の希望や好みに合わせて入浴できるように配慮されている。また、ユニットによってリフトやシャワーチェア等の設備を変えているため、利用者の状態に合わせて適切な設備で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 遊びや会話等も多くなり、ボールで楽しく過ごせる時間が長くなるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が使用している薬の目的、用法用量について職員全員が理解をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 若い時はどういう生活をして楽しんでいたのか等、よく聞きそれに応じて少しでも思い出すよう支援していく。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調を見ながら外出支援を行っている。なかなか外出が難しい方も、庭に出て外の空気を吸ってもらえるよう支援をしている。家族の協力で一緒に外出支援も行っている。	
			(外部評価) 1か月ごとの行事計画を立て、桜や菜の花を見に行ったり、近くのスーパーや衣料品店へ買い物に出かけたりする。外出の困難な利用者には、中庭に車いすで日光浴や外の空気に触れ季節感を味わってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買物で外出した折に、能力に応じてお金を使えるその喜びを思い出すよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 状況に応じて電話等ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 施設の中に広場をつくり時節がわかるよう、季節の花を植え利用者と育てている。また外部がよく見えるよう空間も広く室温もたえず配慮する工夫をしている。	
			(外部評価) 各ユニットから出入りできる芝生の中庭が日々の憩いの場になったり、行事を行う広場になったりと利用者の生活にとって欠かせない空間になっている。安定したいすが色々なところに置かれ、利用者が思い思いのところで寛げるよう配慮されている。壁面には行事の写真なども貼り楽しい様子が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 広いホールを作り色々な思い出の写真等を飾り、ソファ等でゆっくりくつろげるよう、居場所の工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者により、写真、パネル、花等その人にあった好みや在宅時に馴染みのある物を持ち込み、安心して過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 写真、手作り品など思い出の物とともに、テレビ、箆笥などの使い慣れたものを持ち込み、使い勝手のいいように配置されている。絵の上手な職員がペットの絵を書いてくれたのがお気に入りになっている利用者もあり、大切に居室に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室の入口は利用者名プレートを吊り、自室であると認識しやすい工夫をしている。危険な物は目につく所に置かないよう、安全な生活が出来る支援をしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成22年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するという事をよく聞きます。立地条件も良く、広い中庭で思い思いにゆったりと時間を過ごす事が出来、季節の花を植えて利用者様と一緒に水をあげたり眺めて季節感を味わう事が出来ます。主に中庭で年に4回行事を行っており、ご家族様も参加していただくアウトホームなイベントになっています。イベント時はご家族様と利用者様、近所の方々が触れ合える貴重な時間のなので毎回大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関と隣接しているため、24時間体制で連携がとれるなど医療面でも充実しており、家族もそれを心強く感じている。建物は3ユニットとも平屋造りで芝生の中庭に面しているため、光と風をいつも感じることができる。職員の異動が最小限に抑えられているため、利用者との良好な馴染みの関係が構築されている。開設から9年目を迎え、地域との交流もさらに深くなり季節の恒例行事はもちろん、地域住民とのお付き合いも充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム菜の花

(ユニット名) やまぶき

記入者(管理者)

氏名 武田 淳子

評価完了日 2010年 6月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の運営理念を実践し、全員で取り組む為毎朝職員と管理者も一緒に唱和確認している。	
			(外部評価) 理念を毎朝唱和したり、名札の裏に文面を入れていつでも見れるようにする等、職員は理念の意味を理解し共有している。また、今年目標を「やさしい介護」と設定し、職員全員で利用者に今まで以上に丁寧に接している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の清掃活動や祭り等に参加させてもらっている。また、当事業所での季節ごとに催すクリスマス会等の行事や、避難訓練の際にも参加してもらっている。	
			(外部評価) 地域からも認識されつきあいも深まってきている。しめ縄用の稲藁など近所の農家の人の方から今年も要るのではと声をかけて持ってきてくれる。幼稚園児の訪問や、中学生の実習も受け入れている。新聞を作成し近所に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月菜の花便りを地域に発送し、記事中に認知症の方への対応・助言等の記載がある。また近隣の幼稚園、小学校、中学校、看護学校との交流や、体験学習の受け入れを通じ、認知症に対しての理解を深めてもらえる様取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年間の議題計画を作成して、議題に添った関係者の方の参加を呼びかけている。最近では消防署の方の参加があり防災についての助言や、地域の防災組織等を教えてもらいその情報をサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 2か月に1度行事・外出支援・その他ホームの状況報告を行いその後意見交換など行っている。新しい参加者も増え活発に意見交換ができていたことが記録から伺える。ホームからは理事長を始め施設長及び職員、さらに法人内の他事業所からも参加しており重要な会議として位置づけられている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の結果の報告や、様々な研修の場で保険者の担当の方に相談をしている。	
			(外部評価) 新しい情報が入った時など市役所の担当者に教えてもらうこともある。地域包括支援センターとは運営推進会議に参加してもらっているので密な関係がとれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の弊害や、何が身体拘束に当たるか等は、ミーティング等で話し合い周知徹底している。外玄関のみ防犯上、また利用者さんの安全を守る為施錠している。	
			(外部評価) 職員の人数を増やし、利用者を十分見守れる体制をつくることで身体的にも精神的にも拘束に当たることがないように努めている。また、命にかかわること等でやむを得ない場合は、医師の指示に従い家族に同意を取った上で最少最短にするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員が毎朝唱和するマニュアルにも、高齢者虐待防止法についてのマニュアルがあり、職員全員が理解を深め、日々のケアの中で注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通じて制度の理解を深めている。実際に活用した事はないが、こういった対応をすればよいかは、当事業所で作成したマニュアル等で勉強をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には家族に対し十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で契約締結をしている。改定の時には書面にして各家族に十分に説明して同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 事業所に対し家族が意見し難いという事を、管理者、職員は十分理解し匿名での投函の箱を設置したり、来所時に気軽に話しが出来る雰囲気作りを心がけている。年に一回はアンケートを作成して匿名で書いてもらい、そこでの意見等をサービス向上に活かしている。 (外部評価) 投書箱を事業所だけでなく隣接する病院にも置いているが、長い付き合いの中で信頼関係を築いているため利用者も家族も直接言ってくれる。苦情や意見が出された時には、真摯に受け止め、きちんとした対応がとれるような仕組みが構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングであがった職員の意見は、事務長を通じて理事長に聞いてもらう機会を設けている。</p> <p>(外部評価) 理事長は、週に1回往診に訪れた時に職員に声かけし、直接話ができる機会を設けている。管理者と職員は良好な関係が築けており、お互いに話し合いができる関係にある。月1回のミーティングは、お茶を飲みながら気さくに話し合える雰囲気作りに努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者、事務長が職員個々と面談をして、働きやすい環境の整備に努めてくれている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修計画を立て実践をしている。資格試験や研修の費用の支援をしてくれている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修を通じてお互いのホームを訪ねあい、交流をしている。お互いの良い所をサービスの向上に活かせるように努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用希望の段階において職員が出向き、家族や本人の話を十分に聞き、不安を取り除けて信頼関係が築ける様努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時様々な声に耳を傾けて理解し、信頼関係が築ける様努めている。また家族の思いや体験等多様な価値観を受け入れるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本事業所内だけでなく、状況に応じて医療機関や他のサービス機関の利用も含め、総合的に検討するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 暮らしを共にするもの同士として寄り合いながら、喜怒哀楽を共にして、利用者さんが孤独にならないように支えて信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と利用者との関係性が途切れないように、面会時は仲良く過ごせるよう十分に気を配っている。菜の花便りや利用者さんの現況報告書を通じて現状の報告を行い、イベント開催時には参加していただけるよう、声かけを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者さんの馴染みの人や、場所を把握し外出支援を行ったり、電話連絡を行ったりして関係性が途切れないように努めている。 (外部評価) 利用者の友達や老人会の方が訪ねてくれ季節の野菜などを届けてくれたり、昔話をしたりと昔からの馴染みやホームでできた新しい馴染みなど、様々な関係が途切れないよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん個々の価値観・感情等を尊重し、円滑にコミュニケーションが取れるような場面作りに配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した後も、必要な情報提供・助言を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんから、場面場面で聞き取れた話を元にする、また本人からの聞き取りが困難な場合は、家族からの話を元に、利用者の考え方や価値観を把握して、職員全員が同じ理解が出来るよう努めている。 (外部評価) 長く勤めている職員が多く、開設当初からの利用者も何人もいるため信頼関係ができており、お互いに話がしやすい。さらに気心が知れているので表情や態度で思いや意向を把握できる。常に利用者を中心に考え思いを遂げられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者本人、又は関連施設等の情報を元にして、生活歴を把握の上、現在の生活においても自分らしく生活でき、また、力が発揮出来る様な場面を提供できるよう配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 点と点が線になるように、断片的な関わりにならない様一日の流れの記録や申し送りをを行い、カンファレンスを通じて職員全員が現状把握出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は家族や本人の意向が十分反映されるよう、介護職員や他の業種の方々の意見も取り入れ総合的に作成している。定期的にモニタリングを行い、その都度検討している。	
			(外部評価) 利用者本人や家族とも話し合いを行い要望を聞き取っている。利用者一人ひとりに担当の職員が付き、介護計画の案を作成し職員全員で検討している。必要に応じて様々な立場の関係者の意見を取り入れながら管理者とケアマネジャーで最終的に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の目標に向かって、漫然とした記録にならないよう気づき等を記入し、ミーティングや申し送り等で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に小規模多機能事業所があるので、在宅への移行・居住への移行がスムーズに行える体制が出来上がっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 老人会の方や民生委員の方の来所があり、継続して来もらえるように声かけを行っている。 月に1度、幼稚園児の来所による定期的な交流があり、利用者に楽しんで頂ける様務めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 契約時に家族等に聞いて、かかりつけ医、主治医の確 認をしている。 当事業所の場合、隣接の診療所の院長（法人理事長で 事業所代表）を主治医に希望される方が多く、受診の 支援は円滑に行われている。	
			<p>(外部評価)</p> 母体である医療機関が隣接しており、医師が週1回往 診に来てくれているため利用している利用者が多い が、希望する医療機関に掛ることも可能である。他の 病院（皮膚科）とも連携を取っており専門医が往診し てくれる。その他の専門の病院には、家族もしくは外 部のヘルパーが通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 日常的に情報支援を行い、利用者が個々に適切な受 診・看護が受けれるよう医療連携が取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 病院関係者と必要な情報支援や相談は適宜行えてい る。 また同法人であるため、病院関係者との関係は十分出 来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 入居契約時に家族に説明し、方針を共有している。家 族の希望があっても、緊急時には主治医が判断して説 明し同意を得て、入院等の措置をとることも理解して もらっている。	
			<p>(外部評価)</p> 母体である医療機関が隣接しているため24時間医師 や看護師の支援が受けられることから、家族の希望が あれば受け入れる体制がとれている。月1回法人全体 で吸引やAEDの使い方など勉強会を行っている。	家族や利用者は法人やホームの体制に安堵感を感じ、 期待を寄せていることが伺える。全職員に対し講義や 実技講習など繰り返し行いさらに質の高い終末期ケア が提供できるよう希望したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命訓練・応急手当・初期対応は定期的に行っている。 ミーティング時、マニュアルを職員全員で読み上げし、確認している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練訓練（内1回は消防職員を派遣してもらい）を行い、近隣の方も参加され、消防署職員の指導を受けるなど、職員全員参加で取り組んでいる。 (外部評価) 年2回防災訓練を行っている。1回は消防署職員指導のもとで行い、1回は夜間を想定し緊急連絡の練習などしている。地域の中で生活している職員がいるのでその親せきや知り合いの人にも協力を頼んでいる。緊急持ち出し袋など常備し見えやすい所に置いている。	災害対策にやりすぎはないので訓練は定期的につけ、さらにレベルアップを旨とし、利用者の命を守る努力を続けて欲しい。建物もしっかりしていて、医療施設が隣にあるなど好条件がそろっているため災害時の一時避難所に開放するなど地域との相互協力についての検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 態度・言葉遣いは十分に気を付け、利用者様のプライバシーが守られるように気を配っている。 (外部評価) 部屋を訪れる時はノックや声掛けをしている。おむつ交換の時は、さりげなく部屋へ誘導している。着る物は本人に選んでもらい好きなものに替えるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の出来ない利用者に対して、気づき見守り・観察を職員達と共有し気配りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者が生活しやすいリズム、その人らしい暮らしが保てるよう職員は常に心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者様の趣味・個性・価値観に添えるよう気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備、後片付けを出来る方に手伝ってもらっている。 利用者の好みの温度で提供するよう努めている。 (外部評価) 利用者に食べたいものを聞いたり、嗜好調査を行ったりして献立に反映させている。献立は栄養士が作成し職員が調理をしている。研修会などで得た情報を元によりよい食事ができるよう積極的に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が立てた献立メニューで調理している。身体状態に合った物を提供している。 ミキサー食、キザミ食、お茶、またエンシュア等は海草ゼリーで提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯磨きチェック表を用いて、見守り・声かけ、出来ない人には介助している。 寝たきりの人には、清潔ガーゼでケアしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 身体機能の向上、可能な限りトイレで排泄出来るように職員が理解し、個々の段階に応じて支援している。	
			(外部評価) 排泄シートを作り利用者一人ひとりのリズムを把握してトイレへ誘導している。特に排便はトイレで行えるように誘導等に努めている。夜間はチェック表を利用し排泄リズムを把握し必要に応じてトイレ誘導やおむつ交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の症状に応じた自然排便の取り組みを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 出来るだけ希望に添えるよう努力している。状態に応じ24時間対応可能な支援をしている。	
			(外部評価) 最低2日に1回入浴してもらっている。利用者の希望や好みに合わせて入浴できるように配慮されている。また、ユニットによってリフトやシャワーチェア等の設備を変えているため、利用者の状態に合わせて適切な設備で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個人の生活習慣に合った室温にしたり、眠りやすい環境を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 間違いが無いように一回一回薬箱に入れる者、服薬介助する者、複数の職員が確認するようにしている。薬物の控え、薬手帳、いつでも確認が出来るようになっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の生活習慣を把握し、無理の無い範囲でのおやつ、趣味を取り入れ、楽しみがもてるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 介護度に応じた支援を行っている。買物・外食・ドライブ等家族も協力してくれている。(受け入れ店の名簿作成あり) 重度の方にも、中庭で外の空気を味わってもらえるよう支援をしている。	
			(外部評価) 1か月ごとの行事計画を立て、桜や菜の花を見に行ったり、近くのスーパーや衣料品店へ買い物に出かけたりする。外出の困難な利用者には、中庭に車いすで出て日光浴や外の空気に触れ季節感を味わってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望・能力に応じ使えるように支援している。事情により預かり金がある利用者には、家族の来訪時に収支報告をし、確認のサインをもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期的に状況報告のお手紙や、現状報告の電話をし本人との会話を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地よく過ごせるよう、ソファやTVの配置やお花も飾り、照明・空調にも配慮している。	
			(外部評価) 各ユニットから出入りできる芝生の中庭が日々の憩いの場になったり、行事を行う広場になったりと利用者の生活にとって欠かせない空間になっている。安定したいすが色々なところに置かれ、利用者が思い思いのところで寛げるよう配慮されている。壁面には行事の写真なども貼り楽しい様子が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共同の空間・個々の空間、楽しく過ごせる場所や落ち着く場所作りも工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームでの暮らしが安心出来るよう、利用者が昔から馴染みのある物や写真等、家族と相談して持ち込んでもらっている。	
			(外部評価) 写真、手作り品など思い出の物とともに、テレビ、箆笥などの使い慣れたものを持ち込み、使い勝手のいいように配置されている。絵の上手な職員がペットの絵を書いてくれたのがお気に入りになっている利用者もあり、大切に居室に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) リハビリスタッフ、職員と協力しながら無理のない生活、自立して暮らせる環境作りを工夫している。	